

株主のみなさまへ
第17期中間報告書

2014年4月1日～2014年9月30日
株式会社トランスジェニック 証券コード 2342

 株式会社トランスジェニック

一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第17期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、『生物個体からゲノムにいたる生命資源の開発を通して、基盤研究及び医学・医療の場に遺伝情報を提供し、その未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する』ことを目指しております。

この企業理念に基づき、当事業年度においても積極的な事業活動を展開すべく、(株)プライムユーン、(株)ジェネティックラボの完全子会社化による機動性の向上を図り、さらに、ヘルスケア分野への事業参入を目的としてTG分子解析センターを開設し、事業基盤の強化に向けた体制を整えております。

各事業部門においても、ジェノミクス事業の炎症ストレス可視化マウスの特許出願および「可視化マウス研究会」設立によるモデルマウスの収益化の推進を図り、CRO事業では事業統合により事業運営の効率化をすすめました。また、当事業年度より遺伝子解析部門と抗体試薬部門を統合しました先端医療事業部門においては、一般消費者向け遺伝子検査ビジネスの開始により事業基盤の強化を図るとともに、病理診断事業においても新規サービスを開始するなど、全事業部門での積極的な事業活動により成長戦略の推進を図っております。

当社は、本年5月に公表いたしました中長期経営計画「中長期Vision」に掲げました重点施策を実現すべく全社員一丸となって取り組み、持続的な成長を遂げることで、企業価値のさらなる向上を実現させる所存です。

株主の皆様におかれましては、当社の取り組みに何卒ご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

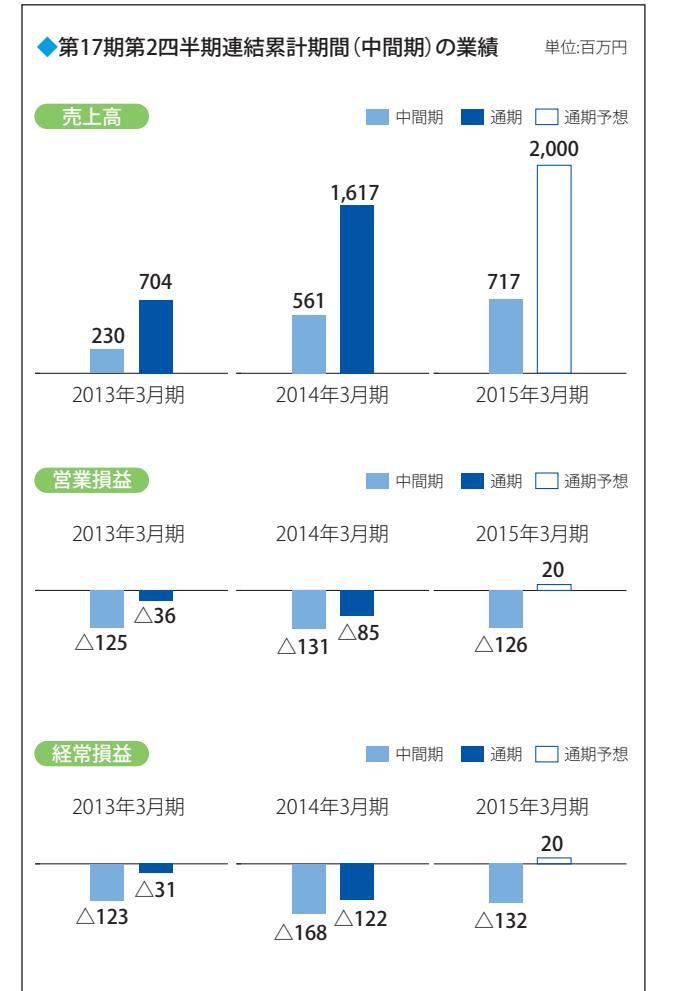
2014年12月
代表取締役社長 福永健司

Q1 当第2四半期連結累計期間(当中間期)の業績について概要をお聞かせください。

A1 当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、昨年実施したM&Aが業績に貢献し事業基盤強化が順調にすすんでおります。その結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高717百万円(前年同期561百万円)と前期比で約1.3倍に拡大いたしました。営業損失126百万円(前年同期131百万円)、経常損失132百万円(前年同期168百万円)、四半期純損失130百万円(前年同期179百万円)となりました。

セグメント別業績状況は、ジェノミクス事業において、遺伝子改変マウス作製受託サービスの受注が順調に伸び、売上高は126百万円(前年同期118百万円)と増収となりましたが、受託体制強化に伴う営業費用増加により営業利益は13百万円(前年同期17百万円)にとどまりました。CRO事業においては、(株)新薬リサーチセンターに事業集約を実施し営業体制の強化を図りましたが、期首繰越受注残高が前年同期より少なかったこと、およびその内訳について納期が下半期以降となるものが前期より多かったため、当第2四半期連結累計期間における売上高は200百万円(前年同期241百万円)と減収となりました。一方、営業損失につきましては効率的な事業運営の結果52百万円(前年同期は営業損失59百万円)と小幅ながら改善となりました。先端医療事業においては、前第2四半期連結会計期間より(株)ジェネティックラボを連結の範囲に加えたことにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は200百万円(前年同期140百万円)と増収となりましたが、同社の先端医療事業部門の業績は下期偏重型であること、また、(株)プライムユーンにおける試薬販売が不調であったことから、営業損益につきましては営業損失5百万円(前年同期は営業利益7百万円)となりました。病理診断事業においては、前第2四半期連結会計期間より(株)ジェネ

ティックラボを連結の範囲に加えたことにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は195百万円(前年同期61百万円)、営業利益は14百万円(前年同期は営業損失8百万円)と順調に推移いたしました。

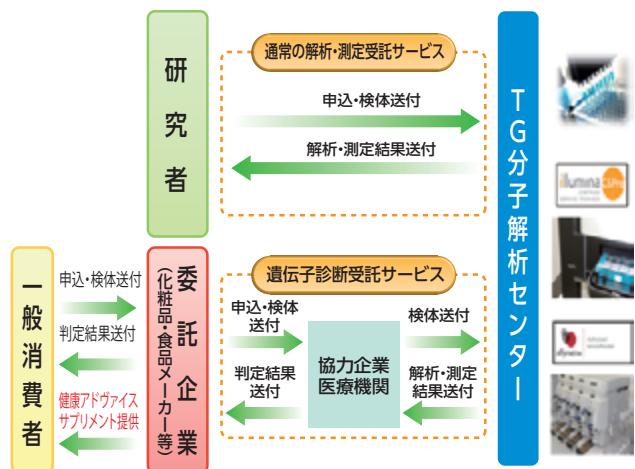


Q2 当中間期における主な施策についてお聞かせください。

A2 当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、機動的な経営体制構築を目的として、(株)ジェネティックラボ、(株)プライムユーンを完全子会社としました。

また、ジェノミクス事業において「炎症ストレス可視化マウス作製とその応用」に関して国際特許出願を行い、今年度中に収益率の高いモデルマウス販売開始を目指しています。先端医療事業においては、(株)サインポストとともに一般消費者向け遺伝子検査ビジネスを開始し、さらに受託体制強化を目的としてTG分子解析センターを神戸研究所内に開設し、収益拡大を図っております。

◆遺伝子検査ビジネスフロー



Q3 通期業績の見通しについてお聞かせください。

A3 これまでのところ受注・販売は計画に対して概ね順調に進捗しており、通期業績見通しにつきましても概ねイメージ通りに着地するものと見込んでおります。ただ、我々の主要顧客である公的研究機関及び製薬企業は、依然厳しい環境に置かれております。新しい研究開発ツールの作製等を通じた研究開発支援強化に今後もより一層取り組むとともに、下期以降の受注活動についても気を引き締めて取り組む所存です。

Q4 最後に株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A4 本年度は、「中長期Vision」に掲げたオンリーワンの創薬トータル支援企業へ向けた足固めの年と位置付けております。株主の皆様のご支援のもと、当社グループは生命資源の開発を通じて社会に貢献する研究開発型ベンチャーとして、これまでも着実に成長してまいりましたが、今後もこの流れを変えることなく企業価値向上に向けて果敢に挑戦しつづける所存です。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当社は、本年5月に公表しました中長期経営Visionを達成すべく、積極的な事業展開を図っております。

長期経営Vision2020の概要

長期基本方針

基礎研究から診断までの各領域に強みをもつ**オンリー・ワンの創薬トータル支援企業**を目指し、持続的成長を実現して企業価値向上を図る。

長期基本戦略

事業戦略

- 遺伝子から臨床試験までを網羅する創薬トータル支援事業の展開
- 診断薬開発、個別化医療開発支援領域での事業化推進
- 海外展開
- M&A推進

機能戦略

- 事業戦略を支える組織体制の構築
- グループ間シナジーを創出する弾力的組織構築
- プロフェッショナル人材の育成

グループ戦略

- 俯瞰的な視点に立ったグループ再編・強化と機能分担

中期経営Vision2017の概要

基本方針

長期経営Vision2020達成に向けた経営基盤構築のための基本戦略の推進

基本戦略

事業方針

- 顧客の求めるベストソリューション提供のための、技術力・営業力の強化
- 創薬トータル支援での収益モデルの確立
- 個別化医療に係る事業での成長戦略推進

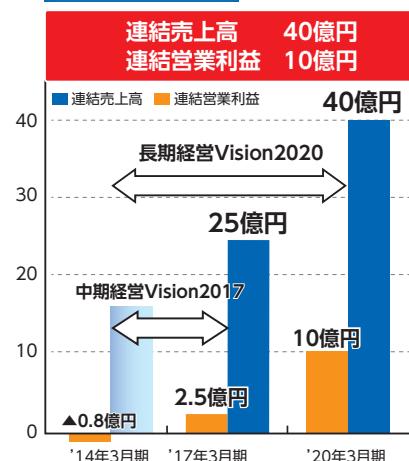
組織改革

- 機動的グループ体制の構築(持株会社への移行開始)

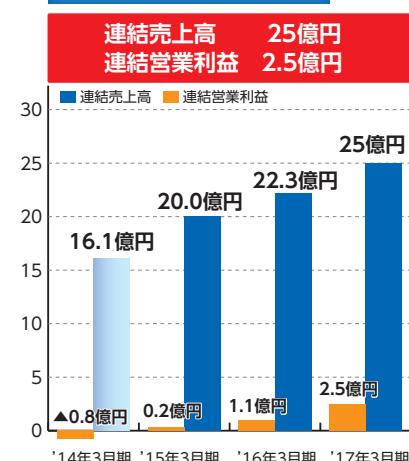
投資計画

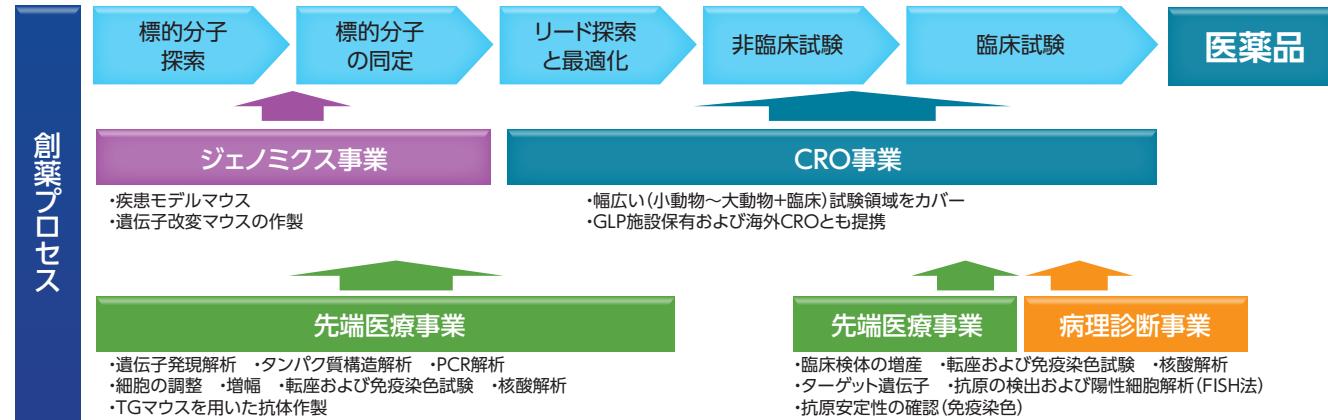
- 成長ドライバー創出のための研究開発推進、技術導入
- 機能強化を目的としたM&A推進
- グループ維持・拡大を支える設備投資

長期業績目標



業績目標 (2017年3月期)





ジェノミクス事業

ジェノミクス事業においては、コンベンショナルノックアウトマウス、コンディショナルノックアウトマウス、ノックインマウス、トランスジェニックマウスなどの遺伝子改変マウスの作製受託のパイオニアとして市場を牽引し、実績と信頼を蓄積し、最新技術導入により、作製期間の短縮、高い成功率を実現しています。さらに、新しい研究ツールとして、各種病態可視化マウスなどの有用なモデルマウスの提供を行っています。また、CRO事業との連携により、GLP施設での遺伝子改変マウスを用いた非臨床試験受託も可能であり、当社独自のサービスとして優位性を図っています。研究開発の一環として、遺伝子改変マウス作製技術を基盤技術とし、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの研究開発に取り組んでいます。

ジェノミクス事業は、創薬プロセスにおける、標的分子探索および標的分子の同定の支援を行っています。

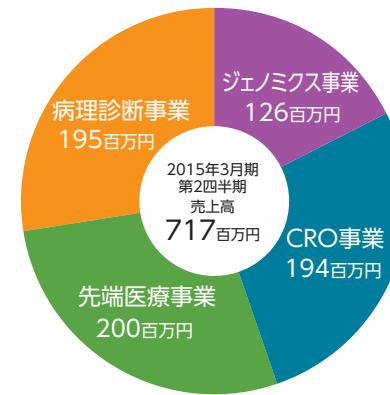
CRO事業

CRO事業においては、GLPおよびGCP遵守の受託研究機関として、小動物、遺伝子改変マウスを用いて幅広い薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験などの非臨床試験受託を行うとともに、霊長類を用いた非臨床試験受託も行い、幅広く顧客ニーズに対応しています。

薬効薬理試験においては、各種動物を用いて病態モデルを作製し、医薬品、ジェネリック医薬品の生物学的同等性試験、医療機器、特定保健用食品の評価等の評価を実施しています。霊長類を用いた安全性薬理試験、各種動物を用いた薬物動態試験など、長年の実績に裏打ちされた高品質で多種多様な非臨床試験受託を取り揃え、高いコンサルティング力により、顧客へベストソリューションを提供することで評価されています。

CRO事業は、創薬プロセスにおける、リード化合物の探索と最適化、非臨床試験、臨床試験の支援を行っています。

売上高構成



先端医療事業

先端医療事業においては、GANP[®]マウス技術を基盤とした高親和性・高特異性モノクローナル抗体作製をはじめとするタンパク関連受託、試薬販売、遺伝子発現解析、タンパク質構造解析等の各種解析受託を行っています。提供するサービスはアカデミア研究機関、製薬メーカー、海外メガファーマからもその技術力を高く評価されています。また、外部研究機関と共同で各種がんマーカー、メタボリックシンドロームなどの診断薬シーズの研究開発にも取り組み、これら有用シーズは中国企業との連携により、中国での診断薬上市を目指して展開しています。さらに、臨床検体の解析、測定サービスと臨床試験領域へのサービス提供も行っています。

先端医療事業は、創薬プロセスにおける、標的分子の同定、臨床試験の支援を行っています。

病理診断事業

病理診断事業においては、経験豊かな認定病理医による質の高い病理組織診断、乳がんや胃がんのバイオマーカーを用いた解析、組織アレイ作製、特異抗体を用いた免疫染色・FISH法による分子の可視化技術や定量評価など、臨床における病理診断を行っています。将来的に、個別化医療の中心となるがん領域、炎症性疾患領域において豊富な病理診断実績を有し、遺伝子解析との技術融合による試験受託は製薬企業ニーズに応えるもので、個別化医療関連の創薬における優位性を有しています。

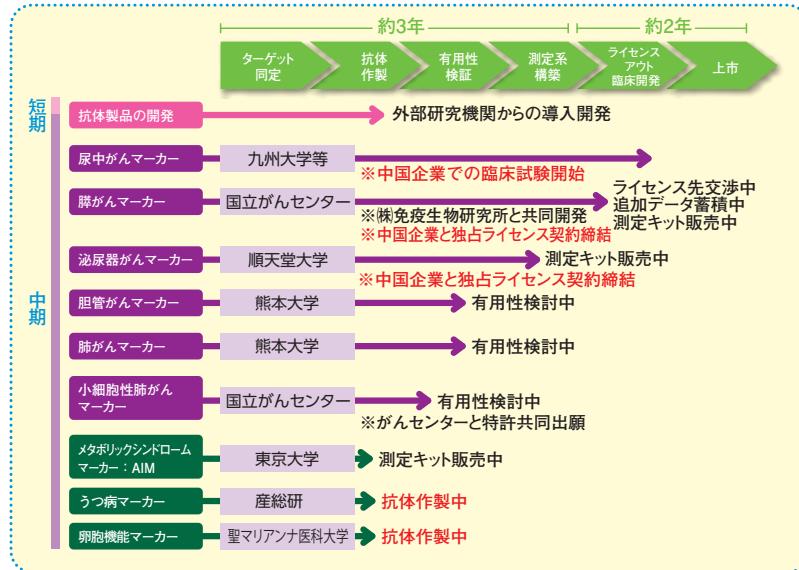
病理診断事業は、創薬プロセスにおける、臨床試験の支援を行っています。

◆研究開発方針

研究開発テーマについては、収益基盤の早期確立を目指すため、選択と集中を基本に絞り込みを行ってまいりました。今後は選択と集中を進める中で、ジェノミクス事業における熊本大学、群馬大学等との有用なモデルマウスの共同研究開発および導入、さらに先端医療事業におけるシーズ探索の拡充の一環として東京大学、産業技術総合研究所(産総研)等との共同研究を通じて、将来的な収益化につながるプロジェクトに経営資源を投入します。

◆研究開発パイプラインの進捗状況

当社は、GANP[®]マウス技術を用いて作製した抗体や外部研究機関から導入した様々なシーズをバイオマーカーとして診断薬へ展開するよう研究開発を進めています。バイオマーカー開発パイプラインの充実を図ることで、抗体事業のブランド力を高めてまいります。



◆研究開発トピックス

4月	膵がんマーカーによるがん診断に関する独占ライセンス契約締結(中国)
	生活習慣病バイオマーカー測定サービスを開始
5月	「トラップマウス技術」に関する特許が米国で成立
6月	独立行政法人産業技術総合研究所との共同研究契約締結
	原発性アルドステロン症研究用抗ヒトHSD3B2モノクローナル抗体の発売
7月	「可視化マウス研究会」発足
	炎症ストレス可視化マウスに関する特許を出願
8月	TG分子解析センター開設
9月	泌尿器がんマーカーによるがん診断に関する独占ライセンス契約締結(中国)
	第56回歯科基礎医学会学術大会にてランチョンセミナー開催
10月	血中卵胞機能マーカーに関する共同研究契約締結
11月	第37回日本分子生物学会年會に出展

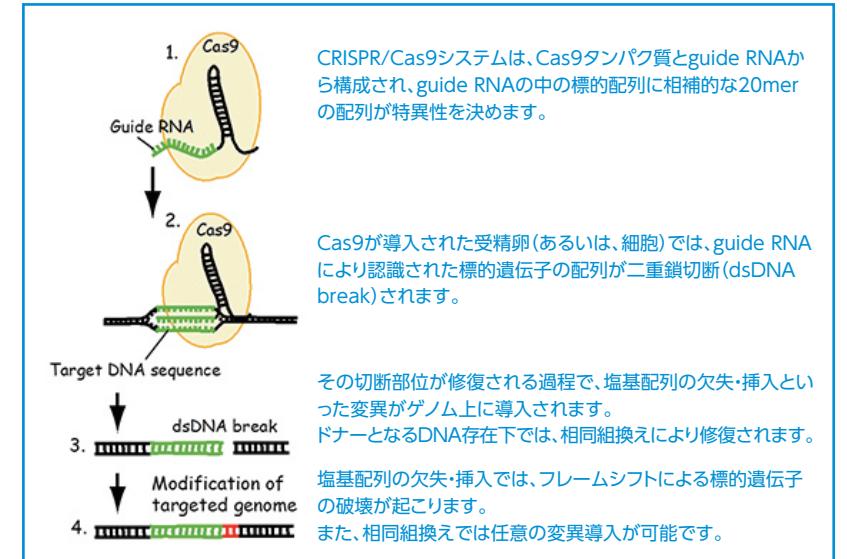
- 契約関連
- 特許
- 製品・サービス
- 学会
- その他

『ゲノム編集技術 (CRISPR/Cas9) を用いた遺伝子改変マウス』 作製受託サービス

当社では、遺伝子改変マウス作製受託の一環としてゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)による遺伝子改変マウスの作製受託サービスを提供開始いたしました。

CRISPR/Cas9システムは、バクテリアで見つかった獲得免疫機構で、近年、効率的な標的遺伝子改変/ゲノム編集技術として広く利用されるようになってきています。

CRISPR/Cas9システムを用いたゲノムへの変異導入は、極めて高頻度であることから、従来の方法に比べノックアウトマウスの作製時間が約13か月から約9か月に短縮、さらにコスト低減が可能となりました。

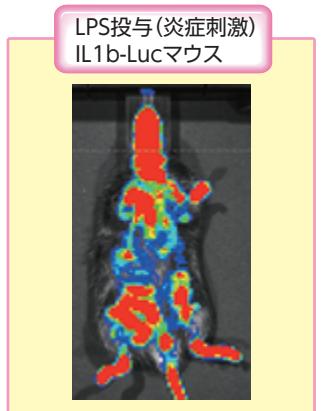


当社は、遺伝子改変マウス作製受託のリーディングカンパニーとして、積極的に新規技術の導入を推進しています。

炎症可視化マウス

当社は、既に販売を開始している病態可視化マウス(小胞体ストレス可視化マウス、酸化ストレス可視化マウス)のラインナップ拡充を目指して、群馬大学、熊本大学と共同で汎用性の高い炎症可視化マウスの開発に取り組んでいます。

本炎症ストレス可視化マウスは、炎症マーカーとして注目されるサイトカインであるIL-1βの産生を可視化し、生体レベルでの炎症反応を捉えることを可能にしたものです。今後、炎症反応を起因とする様々な疾患の創薬研究に寄与することが期待されます。



〈知的財産戦略の方針〉

当社は、探索研究をしている製薬企業や疾病解明に取り組む研究者へ、有益な研究ツール、知的財産を提供することにより、創薬、病態の解明に貢献したいと考えています。

また、当社は、大学・研究機関等との共同研究を積極的に行い、当事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することに努めています。研究開発の早期段階での技術導入により、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据えた特許網を構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しています。さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品・サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しています。知的財産のライセンスについては、製薬メーカーなどの開発・事業のステージにあわせたマイルストーンを設定することにより、戦略的な知的財産の活用に取り組んでいます。

〈特許・ライセンスの事業への貢献〉

当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保っています。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しています。

〈リスク対応情報〉

2014年9月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めています。

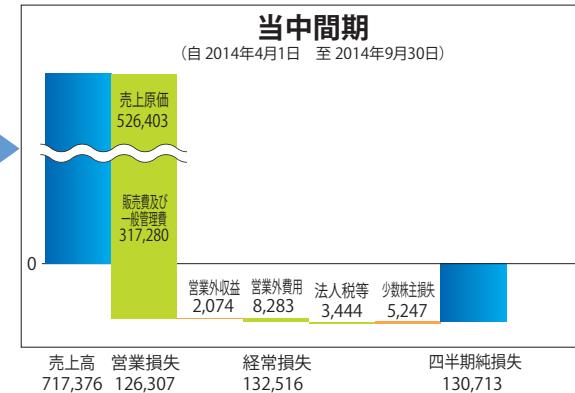
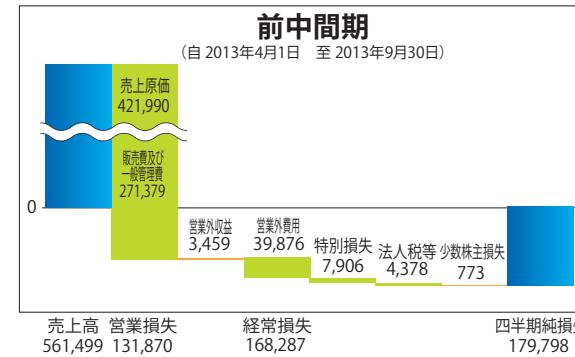
◆主な特許成立マップ

トランスジェニックの特許群は、トラップ技術関連、GANP[®]マウス技術関連、腫瘍マーカーなどが事業の根幹となっています。これらの知的財産をもとに、国内外の複数の企業とライセンス契約を積極的に進めてまいります。



- トラップ法関連特許 日本、米国、欧州、豪州、中国、香港
- 尿中がんマーカー関連特許 日本、米国
- 腫がんマーカー特許 日本、米国
- GANP[®]タンパク質特許 日本、米国、カナダ
- GANP[®]マウス関連特許 日本、米国、欧州、豪州、中国、韓国、香港

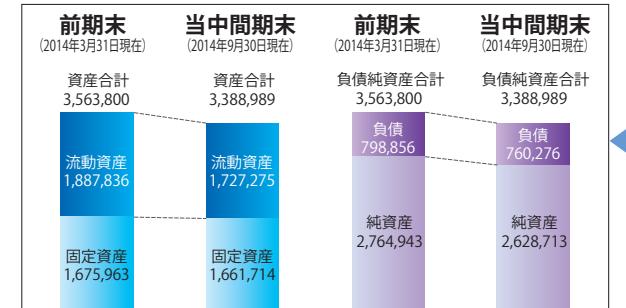
損益計算書より (単位:千円)



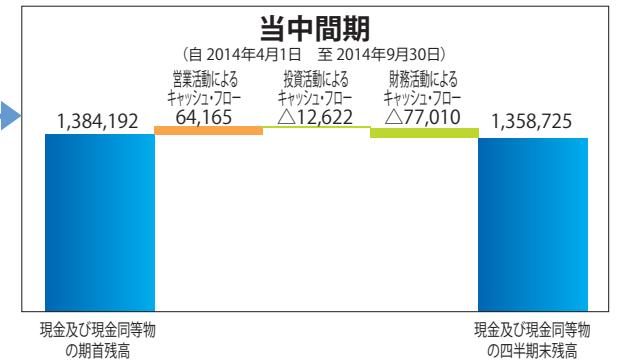
Point 1

当中間期における売上高は717,376千円(前年同期561,499千円)、営業損失は126,307千円(同131,870千円)、経常損失は132,516千円(同168,287千円)、四半期純損失は130,713千円(同179,798千円)となりました。

貸借対照表より (単位:千円)



キャッシュ・フロー計算書より (単位:千円)



Point 2

当中間期末における純資産合計は2,628,713千円となり、前期末に比べ136,230千円減少し、流動資産は1,727,275千円となり、前期末比160,561千円減少しました。これは主に、受取手形及び売掛金が180,238千円減少したことによるものです。固定資産は1,661,714千円となり、前期末比14,249千円減少しました。

Point 3

営業活動によるキャッシュ・フローは、64,165千円(前年同期△63,981千円)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは△12,622千円(同△215,092千円)となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは△77,010千円(同448,156千円)となりました。以上の結果、当中間期末における現金及び現金同等物は、前期末比25,467千円減少し、1,358,725千円(前年同期間末1,498,345千円)となりました。

会社概要 2014年9月30日現在

会社名 株式会社トランスジェニック
設立 1998年4月
資本金 2,550百万円
従業員数 38名(単体)
事業所

本社 熊本県熊本市中央区九品寺二丁目1番24号
福岡オフィス 福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
神戸研究所 兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス 東京都港区虎ノ門二丁目7番5号

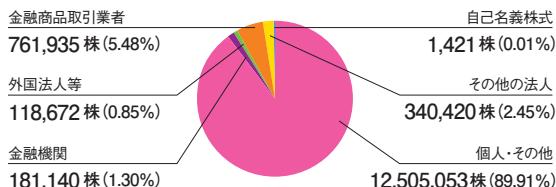
株式の状況 2014年9月30日現在

発行可能株式総数 43,630,100株
発行済株式の総数 13,908,641株
株主数 12,064名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
松井証券株式会社	209,600	1.50
株式会社ムトウ	160,200	1.15
日本証券金融株式会社	153,600	1.10
坂本 佐兵衛	146,200	1.05
上永 智臣	105,500	0.75
野村証券株式会社	102,100	0.73
株式会社SBI証券	100,200	0.72
原田 育生	93,700	0.67
マネックス証券株式会社	91,625	0.65
日置 正人	84,400	0.60

所有者別株主分布状況



役員

代表取締役社長 福永 健司 常勤監査役 鳥巢 宣明
取締役 山村 研一 監査役 遠藤 了
取締役 坂本 珠美 監査役 佐藤 貴夫
取締役 船橋 泰
取締役 清藤 勉

株主メモ

証券コード 2342
上場市場 東京証券取引所 マザーズ
上場年月日 2002年12月10日
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。
ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp/>

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic.co.jp